

地震の沈滞ムード吹き飛ばせ

「ハレ」をテーマ 卒業展

崇城大芸術学部

崇城大（熊本市）の芸術学部卒業展・大学院芸術研究科修了展が21日、同市中央区の県立美術館本館で開幕した。熊本地震で沈んだ気持ちを吹き飛ばそうと、「ハレ」をテーマにした若者の作品が、来場者を魅了している。

卒業展は15回目、修了展は13回目を迎えた。今回は学生47人と院生16人が出品した。テーマの「ハレ」は、熊本の沈滞ムードを吹き払い、生涯の晴れの舞台を成功させようという設定した。人物や自然、心象風景をモチーフにした絵画には作者の自画像が添えられた。ボランティアとして訪れた被災者の家と、被災状態を重ね合わせた写真など、意欲的な作品186点が展示されている。

オープニングセレモニーで中山峰男学長は「震災の体験は悲劇だが、人の思いやりや温かさを知り、芸術家としてプラスになったと思う。卒業後は自分の感性や個性を駆使し、多くの人に感動が与えられるように、努力を続けてほしい」とエールを送った。

展示は26日まで。入場無料。午前9時半～午後5時15分。25、26両日には作品前で制作者が解説する「ギャラリートーク」も開かれる。

崇城大の大学生、院生の作品が並んだ展示会場

